



感染症と新型コロナウイルスについて

令和2年10月1日

一般社団法人 播磨薬剤師会

蓬萊茂希

感染症とは

病原体（＝病気を起こす小さな生物）が体に侵入して、症状が出る病気のことをいいます。

病原体は大きさや構造によって細菌、ウイルス、真菌、寄生虫などに分類されます。

ウイルスと細菌は構造・大きさが
全く違う



ウイルスと細菌は増殖する場所が
違います



ウイルスや細菌の感染経路

接触感染

飛沫感染

空気感染

食べ物や虫による媒介

マスクの効果について



手や指などのウイルス対策

- 手や指についたウイルスは、洗い流すことが大切です。
- 手や指に付着しているウイルスの数は流水で1/100、石けんやハンドソープの使用で10,000分の1に減らせます。
- 手洗いの後、さらに消毒液を使用する必要はありません。
- 外出先など手洗いができないときに、アルコール消毒等に対応して下さい。

うがいの効果について

- ウイルスは体に侵入すると体の細胞と結合し、30分程度で細胞内に侵入し、増殖します。
- 細胞の中に侵入したウイルスに、うがいは効果がないと考えられています。
- イソジンなどのうがい薬を使っても、水でうがいをした時に比べて、風邪の発症予防には効果がないことや、逆にうがい薬ではのどの粘膜を傷害し喉を傷めてしまう可能性が示唆されています。

消毒エタノールについて

- 消毒に適したエタノール濃度は76.9～81.4vol%。
- エタノールの濃度を高くしても、殺菌効果は弱くなる。
- テーブルや椅子などの消毒には、ペーパータオルなどに十分しみこませてから一方向に拭き上げる。
- 揮発性があるため、噴霧する場合は必ず換気、マスクの着用をする。しばらくしてから残った水分を乾いたペーパータオル等で拭く。
- 手が荒れやすいので手袋の着用も必要です。



新型コロナウイルスについて
分かってきたこと・・・

症状について

咳などの呼吸器症状が主体。
初期は風邪症状と区別がつかない

感染経路について

- 飛沫感染、接触感染が主な感染経路であるが、特に飛沫感染によるものが多く、咳やくしゃみの飛沫だけでなく、会話でも伝染する可能性があります。特にカラオケ・会食など日常よりも強い会話で起こりやすいと考えられている。
- 空気感染も一定条件（3密＝密閉・密集・密接）が揃えば可能性が考えられる。
- ペット、蚊、食品からの感染は今のところ報告されていない

まずは飛沫感染予防をしっかりとすることが大切

感染性について

- 潜伏期間は2～7日（平均4日）。
- コロナ陽性者からのウイルス検出量は進行期よりも感染初期のほうが多い。
- 感染性は発症の2～3日前が最大。
- 感染者の8割は他の人へ感染していない。ただし、一定条件（3密＝密閉・密集・密接）が揃うと一部の患者が多くの人に感染させてしまう。

陽性と診断されたときには、他の人に感染してしまっていることが多い

死亡率について

- 集中治療を要するような症例では5割
- 平均的な死亡率は0.7%。高くても2%
- 若者ほど死亡率低く、高齢者では15%
- アメリカでは第一波よりも第二波のほうが死亡率、入院率低下

無症状者も多いことから検査の拡大や治療法の進歩もあり、
全体での死亡率は0.5%ほどかも

PCR検査について

- PCR検査の感度は70%程度。ウイルスの感染していても30%の人は陰性の検査結果となる。（感度低い）
- ウイルス感染していない人が陽性の検査結果となあることはない（特異度高い）

PCR検査が陰性≠感染していない
PCR検査が陽性=感染している